

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 5 月 16 日現在

機関番号：10102

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2015～2016

課題番号：15H06124

研究課題名(和文)自由意志信念の構造と機能を説明する実証的モデルの確立

研究課題名(英文)Development of the empirical model explaining factors and functions of people's free will beliefs

研究代表者

渡辺 匠 (Watanabe, Takumi)

北海道教育大学・その他部局等・特任講師

研究者番号：80759514

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：人々にとって、自由意志とは何を意味するのだろうか。本研究は人々の自由意志概念を構成する具体的な要素について、自由記述により検証をおこなった。その結果、人々にとって自由意志とは、「何ものにも拘束されず、自分の心理状態にそって行為を選択する」ということを意味することが明らかになった。さらに、人々の自由意志信念は責任帰属や自己コントロールなど、われわれの社会生活で重要な機能を果たすことが実証されている。これらの知見にもとづき、人々の自由意志信念の構造と機能を説明するモデルを構築することができたと考えられる。

研究成果の概要(英文)：What is meant by free will? The present research used a free description method and explored specific factors which constitute people's concept of free will. The results suggest free will means for people to choose actions along with one's mental states and is free from constraints. Furthermore, the research found that free will beliefs have important social functions such as attribution of moral responsibility and self-control. On the basis of these evidence, a model was constructed which explains the factors and functions of people's free will beliefs.

研究分野：社会心理学

キーワード：自由意志信念 社会心理学 実験哲学

### 1. 研究開始当初の背景

自由意志に関する問題は哲学を中心として、心理学や脳科学、法学などで議論されている。しかし、「自由意志」という概念が何を意味するか、その内実は研究領域間、あるいは研究領域内でまったく一貫していなかった。そこで本研究は「自由意志」という概念の意味を人々の自由記述を通じて探るとともに、それらの自由意志概念がわれわれの社会生活でどのような機能を果たしているかを実証的に明らかにすることを試みた。

### 2. 研究の目的

本研究の主な目的は次の2つであった。第1に、本研究は「人々の自由意志概念が何から構成されているか」を明らかにすることを目的とした。第2に、本研究は「人々の自由意志に対する信念がわれわれの社会生活でどのような機能を果たしているか」を検証することを目的としていた。これらの検討を通じて、人々の自由意志概念を構成する要素や「自由意志は存在する」という信念の社会的機能を記述したモデルを構築することを目指した。

### 3. 研究の方法

自由意志概念の構要素の検討については、自由記述と質問紙の2種類の方法を使用した。まず、自由記述の方法については、参加者に対して「自由意志をもつ」ということは何を意味すると思うかを数行で説明してもらった。その自由記述の回答についてコーディングをすることで、どのような要素が自由意志の下位概念として抽出できるかを分析した。

また、質問紙の方法については、自由記述の研究で自由意志概念の主な構成要素として抽出された他行為可能性、行為者性、制約からの自由の3つの下位概念について、それぞれの下位概念の内容を反映した質問項目を複数作成し、それらの質問項目から構成される自由意志信念尺度を作成した。それぞれの下位概念の項目例を以下に記載する。

#### 他行為可能性

1. ほとんどの場面で、われわれには複数の行動の可能性が開けている
2. ある行動が起きたときに、ほかの行動が起きることも当然可能だったはずである

#### 行為者性

1. わたしたちは自分の意のままに行動をすることができる
2. ほとんどの行動は当人の思考や欲求、動機によって引き起こされる

#### 制約からの自由

1. 人の行動は外的な要因によって強制されるわけではない
2. 当人以外の誰かが行動を決定することはできない

次に、自由意志信念の社会的機能の検討については、自己コントロール(衝動的反応の抑制)と責任帰属(行為に対する道徳的責任の付与)という2つの機能に焦点を当て、「自由意志は存在する」という人々の信念がこれら2つの機能を有しているかを検討した。検討の方法として、これまでの研究で開発した自由意志信念尺度および自己コントロールと責任帰属の各尺度を使用し、自由意志信念の下位尺度(他行為可能性、行為者性、制約からの自由)と自己コントロール・責任帰属との関連を分析した。

### 4. 研究成果

まず自由意志概念の構成要素の検討について、自由記述の研究では他行為可能性(複数の行為が可能であること)、行為者性(自分の心理状態が行為を引き起こすこと)、制約からの自由(内的もしくは外的要因に拘束されずに行動すること)に言及していた参加者が多く、人々の自由意志概念はこれらの要素から構成されることが示唆される。つまり、人々にとって自由意志とは、「何もものにも拘束されず、自分の心理状態にそって行為を選択する」ということを意味すると考えられよう。

つづけて、質問紙尺度の研究では、調査データについて因子分析をおこなった結果、自由記述の研究と一致して他行為可能性、行為者性、制約からの自由という3つの因子が抽出された。さらに、これらの下位概念の項目は自由意志と関連した実体2元論や因果的決定論、運命論などの概念と同じ因子に分類されることはなかった。このような質問紙尺度の研究結果も、人々の自由意志概念の構成要素が他行為可能性、行為者性、制約からの自由という3つであることを支持しているといえよう。

さらに、自由意志信念の社会的機能に関する検討では、自由意志信念と自己コントロール・責任帰属との間にそれぞれ正の相関関係が観察され、自由意志信念が強い人ほど、自己コントロールや責任帰属が促進されていた。すなわち、「自由意志は存在する」と信じている人ほど、自分の衝動的反応を抑制したり、自分や他者に道徳的責任を付与する傾向があることになる。

このように、自由意志信念が自己コントロールや責任帰属を促進するならば、それらを通じて自由意志信念は個人の社会への適合を促進するであろう。なぜなら、自己コントロール(自分の衝動的反応を抑制する)と責任帰属(行為に対して道徳的責任を付与する)は、それぞれ社会にとって望ましい行動をうながすと考えられるからである。つまり、「自由意志は存在する」という信念は社会への適合をうながす、個人にとって望ましい帰結をもたらすと考察される。

以上のように、本研究は自由意志信念の構造と社会的機能を説明する統合的なフレームワークを構築できたと考えられる。今後の展開の可能性として、「自由意志は存在する」という信念が個人にとって望ましい帰結をもたらすならば、自由意志信念を強めるべきなのか、自由意志信念を強めるべきとしてどのように強めるのか、自由意志信念を強めたときの弊害はないか、などの問題を心理学的にもしくは他領域の研究者とも議論しながら検討していくことが挙げられる。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 4件)

二木望・渡辺匠・櫻井良祐・唐沢かおり、実体性が両面価値的な集団への行動意図に及ぼす影響：エイジズムに着目して、「社会心理学研究」(査読有)、日本社会心理学会、第32巻第2号、pp. 228-231、2016

<http://doi.org/10.14966/jssp.0879>

渡辺匠・松本龍児・太田紘史・唐沢かおり、一般的・個人的自由意志尺度 (Free Will and Determinism Scale; FWDS) 日本語版の作成、「パーソナリティ研究」(査読有)、日本パーソナリティ心理学会、第24巻第3号、pp. 228-231、2016

<http://doi.org/10.2132/personality.24.228>

Watanabe, T., Sakurai, R., & Karasawa, K.、Free will beliefs and moral responsibility: Disbelief in free will leads to less responsibility for third person's crime., 「Asian Conference on Psychology and the Behavioral Sciences 2015 Official Conference Proceedings」(査読有) pp. 423-431、2015

Watanabe, T., & Karasawa, K.、The association between free will beliefs and stereotypes: People's belief in fatalism promotes gender stereotypes., 「Asian Conference on Ethics, Religion and Philosophy 2015 Official Conference Proceedings」(査読有) pp. 67-75、2015

[学会発表](計 4件)

渡辺匠、自由意志の問題に関する概念的・実証的検討、「人文学部研究プロジェクトワークショップ：ヒト認知系の総合的研究」、新潟大学、2016年11月15日

Watanabe, T.、How do people conceptualize free will?、「Concept Engineering: A Road to Proposing a Better Concept Definition Workshop (The 31st International Congress of Psychology)」、Pacifico Yokohama、2016.7.25

松本龍児・渡辺匠・唐沢かおり、自己と他者についての自由意志信念が援助意図に与える影響、日本社会心理学会第56回大会、東京女子大学、2015年11月1日

松本龍児・渡辺匠・唐沢かおり、自由意志信念が福祉政策への賛意に与える影響、「日本グループ・ダイナミクス学会第62回大会」、奈良大学、2015年10月11日

[図書](計 1件)

渡辺匠、自由意志の概念を工学する：心理学側からの問題提起、「概念工学マニフェスト：心理学と哲学との交点」(18ページ)、名古屋大学出版会、2017(刊行決定済み)

[産業財産権]

○出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]  
ホームページ等

#### 6. 研究組織

(1)研究代表者

渡辺匠 (WATANABE, Takumi)  
北海道教育大学・教員養成開発連携センター・特任講師  
研究者番号：80759514

(2)研究分担者 ( )

研究者番号：

(3)連携研究者 ( )

研究者番号：

(4)研究協力者 ( )